

国際クルーズ船 「ウエスティルダム号」が 石垣港、那覇港へ寄港しました!

～海外からの国際クルーズ船の受入れは、約3年ぶり～



オランダ船籍の国際クルーズ船「ウエステルダム号（総トン数82,862t）」（乗客1,908名、乗員784名）が令和5年3月8日（水）石垣港に、翌3月9日（木）那覇港に寄港しました。海外から沖縄県への国際クルーズ船の寄港は、新型コロナ感染拡大の影響により令和2年2月を最後に途絶えていましたが、この「ウエステルダム号」により約3年ぶりに再開しました。



▲那覇港に寄港した「ウェステルダム号」(R5.3.9)

石垣港では、再開された国際クルーズ船を沖縄県内で最初に受け入れることとなり、この「ウエスティルダム号」の寄港にあわせて歓迎セレモニーが開催されました。石垣港の岸壁上では、船長への花束贈呈や地元パナナ会による、沖縄の伝統楽器「四つ竹」を鳴らした演舞が披露されました。那覇



▲石垣港に寄港した「エクセルダム」(B5 38)

海外からの国際クルーズ船の受入れ再開にあたっては、昨年11月に業界団体が新たなガイドラインを策定したことを受け、港湾、医療、



那覇港での▶ お出迎えの 様子(PF 30)



◀石垣港での歓迎 セレモニーの様子 (R5.3.8)

港では3年ぶりの国際クルーズ船を一目見ようと多くの見物客が訪れ、那覇港クルーズターミナルはお祭りの様な賑わいを見せていました。

また、検疫や入国手続きを終えた乗客の皆様は、バス、タクシー、徒歩で観光を楽しんだ様子でした。

搬送、観光、税関、入管、検疫の
関係機関から成る沖縄県クルーズ
船受入協議会等で、事前に受入れ
に関する議論・合意を行いました。
また、新型コロナ感染防止対策
については、日本国際クルーズ協
議会（JICC）ガイドラインに基
づき適切な対策・運用がなされ、
問題なくクルーズの運航を行うこ
とができました。

今後も、安全で安心したクルー
ズが楽しめるよう感染対策の徹底
を図り、地元への理解を得ながら、
順次運航が再開される予定です。